

令和４年１２月１日

（送信枚数：全７枚）

各位

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京都高齢者福祉施設協議会

会長 田中 雅英

第１７回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'２２」

審査結果について（ご報告）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第１７回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'２２」の開催にあたり、皆様には発表への応募をはじめ大会の参加呼びかけ等、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで無事に大会を終了いたしました。

さて、今大会の審査結果については、表彰審査委員会による厳正な審査の結果、別紙の通りとなりましたのでお知らせいたします。

なお表彰題数は各テーマ１題ずつとし、受賞した施設・団体の一覧は、顕彰の一環として、本会ウェブサイトをはじめ、広報誌等に掲載させていただく予定です。

記

- | | |
|---------|---|
| １ 審査結果 | 別紙のとおり |
| ２ 問合わせ先 | 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当（林・渡邊）
（電話）03-3268-7172 （FAX）03-3268-0635 |

第17回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'22」 審査結果（受賞者一覧）

テーマA 介護ロボット・ICT・IoT／業務改善・生産性の向上

優秀賞

舟渡居宅介護支援事業所（社会福祉法人 不二健育会）／ 蓮沼美歩さん

主題 コロナ禍における新規ケアマネジメントの作業時間を短縮させる取り組みと効果について

副題 新規ケアマネジメントの作業のムリ、ムダ、ムラを撲滅し、ご利用者にとってより良いマネジメントができることを目指して

審査員からのコメント

【村井】

- ・ケアマネジメント作業時間短縮のために要因分析を行った際、新規ケアマネジメント業務が大きな負担となっていた。その中からケアマネ主導で効率化できる業務を洗い出し、アセスメント時間の改善を行った。
- ・アセスメント手法の構造化とPC入力による効率化、チームケア体制はコロナ禍に適しており、また本質的な面としても適切な改善と思われる。

【宇井】

- ・訪問準備を丁寧に行うことでここまで業務時間が短縮できるのかととても驚きました。ぜひ他事業所でもマネしていただきたいです。また改めてケアマネさんの仕事が、アセスメントよりも事務作業が大半を占めていることも明らかになったと思いました。研究内容の中で、PCの持ち込みは難しいと書かれていましたが、数年以内にはPCやスマホ持ち込みに寛容に対応し、より一層ケアマネさんの業務負担を減らしていきたいと思いました（行政への提言に改めて加えるべきと、私自身が衿を正す機会となりました）事業所の収支変化も載せていただき大変勉強になりました。ありがとうございます。

第2位

特別養護老人ホーム等々力の家（社会福祉法人 奉優会）／

渡邊優香里さん・アンキ パレフィ プテラ ハリヤンディさん

主題 等々力式眠り革命

副題 ～睡眠センサーを活用した認知症ケア・リスクマネジメント・減薬～

審査員からのコメント

【村井】

- ・睡眠見守りセンサーのデータを基本として、活用委員会を設置した。ヒヤリハットは減っても、観測データに変化がないという確認方法による利用者の実態把握ができている点が素晴らしい。
- ・カメラによる客観的な分析ができるようになった点も、適切な原因分析と対策ができるため効果的と考えられる。
- ・発表内容も動画を積極的に利用しており、明確なエビデンスが示され非常にわかりやすい。
- ・複数の方の事例を検証している面でも研究・実践の客観性が高まるため評価できる。

【宇井】

- ・従来の理論に捉われず、「眠り革命」と題して既知の理論を組み合わせたことはとても独

自性があると言えます。特にBPSD改善に睡眠がキーであることは知られているが、一つ一つのデータを客観的に捉え、ご自身たちで仮説を構築されているところは素晴らしいかったです。

第3位

ベストリハ株式会社／山本健太さん

主題	介護DXについて
----	----------

副題	システム導入による業務改善効果
----	-----------------

審査員からのコメント

【村井】

- ・いくつかの調査結果が示されているが、出典やNが示されていないので示した方が良いでしょう。
- ・介護DXとは何かという全体的な構造整理が欲しいところだった。その中で今回取り組んだ部分はどこなのかが示されるとさらに良い。
- ・アルゴリズム思考の説明は科学的で非常にわかりやすい。
- ・今回は科学的介護、遠隔確認、働き方の3点が報告ポイントとされた。
- ・介護の可視化は効果的だと感じられる。
- ・システム導入と組織づくりは同時に行う必要がある点は、全く同意見であり2007年時点で報告している。
- ・各種介護データの定量評価は興味深い内容であった。
- ・動画演出、ストーリーが秀逸であった。
- ・考察・まとめについて、さらに具体的な情報が示されると良かった。

【宇井】

- ・介護現場にはご本人・介護者・経営者と最低3人の登場人物がいらっしゃいます。この3人にとって有益な三方よしを作るのは非常に難しいかと思います。本取り組みはご本人のQOL向上と介護者の業務負担軽減、そして経営効率をバランス良く取り組まれており、非常に優秀な取り組みだと思います。素晴らしい取り組みをご紹介いただきありがとうございます。

テーマB 日常ケア・認知症ケアの向上

優秀賞

特別養護老人ホーム第三南陽園（社会福祉法人 浴風会）／菅祐一朗さん・吉田晶美さん

主題	自立支援の視点でケアを行う事でコミュニケーションの本質的な力を実感した研究
----	---------------------------------------

副題	ご利用者主体の寄り添う姿勢と支援を目指して
----	-----------------------

審査員からのコメント

【西口】

- ・職員の言葉を見直し、利用者に寄り添う一体感が自立につながったことを学びました。タイトルはもうすこしわかりやすいほうがよいかと思いました。

【細野】

- ・職員の方々の利用者に対する自立支援への意識の高さが伝わった。施設の中での業務改善への取り組みが、介護サービスの質の向上へと繋がるという理想的な事例だった。

第2位

特別養護老人ホーム駒場苑（社会福祉法人 愛隣会）／川添桃子さん

主題 発達障害が疑われる特養入所者に対する、特性を踏まえた関わりの効果について

副題 A氏の生活環境調整に関する事例から

審査員からのコメント

【西口】

- ・高齢期の発達障害は取り上げられること自体が少ないので大変貴重な報告でした。と同時に、発達障害かどうかの特定が出来ない以上、他の要因との関連も視野に置いた支援についても研究する必要があるのではないかと思います。また医療や看護また心理との連携についても触れてほしかったように思います。着眼点や内容についても学ぶことが多いので学会報告や学術誌への投稿もご検討ください。

【細野】

- ・高齢者の発達障害に気づき対応する職員の方々のアセスメント力の高さを感じた。発表の中でも語られていたが、このような事例が今後増えてくると考えられるので先駆的な取り組みで興味深いものだった。

第3位

東京令和館中野（社会福祉法人 東京武尊会）／森田由紀さん

主題 胃全摘術後10年が経過した利用者が食事摂取量増加に繋がった事例

副題 なし

審査員からのコメント

【西口】

- ・10年の間苦しめられた食事がケアの力で大きく改善されたこの報告は感動すら覚えました。ただこの取り組みに医療や看護がどのような立ち位置であったのか、教えて欲しかったようにも思いました。

【細野】

- ・専門性の高いケア実践の取り組み事例である。利用者の健康寿命の延伸に繋がるケア内容がとてもわかりやすくまとめられていた。

テーマC 地域包括ケア・地域貢献・地域共生社会

優秀賞

特別養護老人ホーム南陽園（社会福祉法人 浴風会）／鶴田崇さん

主題 手作り布マスクとお手玉からつながる地域の輪

副題 心の距離が縮まる中で見えてきた施設が果たす役割

審査員からのコメント

【永嶋】

- ・コロナという状況をプラスに転化したよい事例である。マスク等の寄付は、外部のボランティアが施設に提供すると考えるのが一般的であるが、このような固定的な見方を見事に打ち破った。施設職員の支援を受けながらとはいえ、このような取り組みを行う利用者が施設の評判を高めることに貢献したともいえる。

【大木】

- ・感染拡大予防が優先されるときに、視点を変えてどう地域に関わっていけるかを考え利

用者も巻き込んだ活動は高く評価できる。

第2位

調布市地域包括支援センターときわぎ国領（社会福祉法人 常盤会）／小島泰之さん

主題 複数の団地集会室をオンラインで繋いだハイブリッド型の地域ケア会議の効果

副題 目指せ高齢者の詐欺被害ゼロ 注意喚起の新しい工夫

審査員からのコメント

【永嶋】

- ・複数の団地やマンションをつなぎ、ハイブリッド型の地域ケア会議を行うという発想が面白い。なぜ参加者数を劇的に増やすことができたのか、その要因についてさらに深めることができるとさらによい。

【大木】

- ・「情報難民」に陥りやすい高齢者に対して、迅速公平に伝えていくためにはどうあるべきか。課題、仮説、実践、結果、考察一連の流れが明確でわかりやすい有意義な発表。高く評価する。

第3位

みずべの苑地域包括支援センター（社会福祉法人 うらら）／村井義子さん・由井洋子さん

主題 コロナ禍でもできる地域とのつながり

副題 「あおぞら体操」を通して自主化への働きかけ

審査員からのコメント

【永嶋】

- ・コロナによってサロンが閉鎖されたことで外出を自粛するのではなく、反対に屋外で体操を行うという発想がよい。年度末の参加者アンケートのグラフについては全数や単位の記載がなかったので、この点が改善点である。

【大木】

- ・「今でもできること」へ発想を転換し新しいプログラムを開発し区内全域への働きかけは評価できる。オンライン開催ということで投影資料内容を更に濃くすると内容の理解力が高まると思われる。

テーマD 次世代を見据えた人材採用・育成・定着・経営・リスクマネジメント

優秀賞

砧ホーム（社会福祉法人 友愛十字会）／三浦好顕さん

主題 福祉施設における社会貢献としてのSDGsの取り組み方についての一考察

副題 ブームで終わらせないSDGsのすすめ

審査員からのコメント

【壬生】

- ・個々の職員が自分らしく、喜びとやりがいをもって実践する方法として素晴らしい取り組みである。今当たり前に行っている実践に意味づけを行い、アクションプランを設定して実践していくことは、職場環境の変容につながることを期待できる。

【丹羽】

- ・課題の設定（目的と仮説）が整理されている。視点が定まっているSDGsに乗った実践研究はやり易いものだったと想像する。結果がもたらした成果の深掘りがほしかった。

第2位

特別養護老人ホームさくらのみち紫苑（社会福祉法人 櫻灯会）／小林貴洋さん

主題 チームリーダー育成のための事業所間研修による事業所の意識向上及び課題検討

副題 6事業所間での風通しの良い職員派遣研修

審査員からのコメント

【壬生】

- ・法人の事業所内相互研修を行うことによって、具体的な相互の課題が明確になり、利用者のサービスの質向上が期待される。人材育成のためにはリーダー層の意識向上のための取り組みが参考になる。

【丹羽】

- ・課題設定が優れており、仮設立～実践～検証のプロセスは立派だ。法人全体で実践した様子や成果を丁寧に説明しているのもとてもいい。考察の内容も優れている。

第3位

特別養護老人ホームおぎくぼ紫苑（社会福祉法人 櫻灯会）／野村誠也さん

主題 多職種協働による共通認識統一の為の新入職員向け人材育成ツール作成の取り組み

副題 利用者サービス向上のためのスモールステップ

審査員からのコメント

【壬生】

- ・人材育成ツールを必要とした理由、問題に法人組織で取り組むことの成果が上手くまとめられていた。「法人職員として求められる職務行動の明確化」であったことに気づき、実践した実例。

【丹羽】

- ・対人援助サービスにおいて入職時の最低限のスキル・マナーを身につけることは重要である。新人職員向け人材育成ツールを試行錯誤しながら開発しており、今後の取り組みの成果を期待したい。

日本介護福祉士養成施設協会東京部会奨励賞

●日本福祉教育専門学校（学校法人 敬心学園）／佐々木あやさん

演題名 日常ケアにおけるQOLの向上

●日本福祉教育専門学校（学校法人 敬心学園）／

レー ティ タン タオさん・レイ ティ タムさん・ホアン ティ フォンさん・マイ ティ スアン ティさん

演題名 ベトナムと日本の高齢者の生きがい

<参考>

各賞について

優秀賞	各テーマにおける口演発表の総得点数が1位の者
日本介護福祉士養成施設協会 東京部会 奨励賞	学生発表

審査員

テーマ	氏名	所属・役職
テーマA	村井 祐一	田園調布学園大学人間福祉学部社会福祉学科 教授
	宇井 吉美	株式会社 aba 代表取締役
テーマB	西口 守	東京家政学院大学現代生活学部 教授
	細野 真代	日本福祉教育専門学校介護福祉学科 学科長
テーマC	永嶋 昌樹	日本社会事業大学社会福祉学部 准教授
	大木 一郎	NPO 法人東京都介護支援専門員研究協議会 副理事長
テーマD	壬生 尚美	日本社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科 教授
	丹羽 勝	株式会社エイデル研究所人材育成支援部 主幹